

オフィス環境改革

P R

コロナ禍を経て対面でのコミュニケーションの重要性が見直された結果、「オフィス回帰」の動きが一段と鮮明になっている。企業は社員の交流活性化やチームの一体感、組織文化の再構築をめぐる「新しい働き方の最適解」を模索する。オフィス自体が創造性を引き出すための重要な空間として認識され始めている一方で、出社を促すには会議室や座席の不足など物理的な課題もある。業務効率や組織間連携、モチベーションなどを高められる職場環境を提案する各社の動きを追った。

空調はオフィス環境を構成する重要な要素の一つ。働く人の快適性に加え、メンテナンス性の良さや省エネルギー性も欠かせない。空調設備はオフィスの消費電力の大部分を占める。二酸化炭素(CO₂)排出量削減の観点からも見直しは有効である。

業務用空調機を提供する新晃工業は、水方式空調機だけでなくヒートポンプ方式空調機にも注力している。一般的なパッケージエアコンは、外

1台で外気処理＋空調 大空間用 4月投入

新晃工業

気処理能力が足りないことが多く湿度調整能力も限定的で、外気導入や加湿を行うために別の補助機器を入れることが少なくない。近年の夏季の気温上昇に伴い、従来の方式では快適な室内環境の維持が難しくなる可能性もある。

同社の「ヒートポンプ空調機Ⅱ」は、快適な温湿度制御と十分な外気処理能力を備える。1台で外気処理と室内空調が行えるため、パッケージエアコンと比べ設置台数を少なくでき、メンテナンス作業の省力化に貢献する。オフィスビルは収容人数によってC

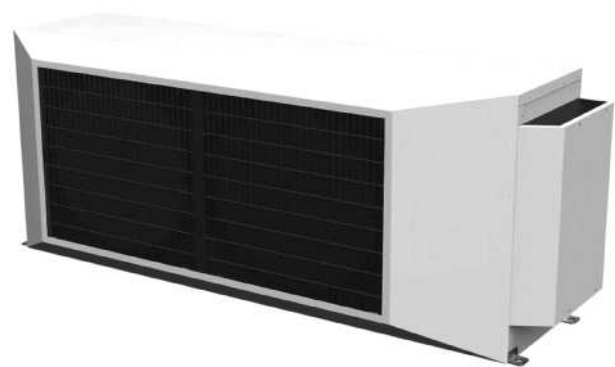
O₂濃度や熱負荷が異なるが、同製品は風量調整範囲が広く精密な風量制御ができるため、電力消費を抑制できる。

屋内設置が困難な場合や工事期間を短くしたい場合は、ヒートポンプ空調機シリーズ「オクージオ」が適している。屋外に設置できるため機械室を必要としない。空調機本体と室外機が一体のため配管工事不要。工期短縮と施工費削減を実現する。

工場や整備場などの暑熱対策向け製品として、大空間用エアコン「Chibeta

(チベタ)」を4月に発売予定だ。20畳先でも1秒間に11回の風速を保つ大風量仕様の製品で、薄型のため天井り・壁掛け設置のいずれも可能。別売りのダクトを取り付ければ特定の箇所への送風もできる。初期費用を抑えたい場合は、1台の室外機に複数の機器をつなげられるマルチ接続が可能だ。

▲大空間用エアコン「Chibeta(チベタ)」



空気をデザインする会社

SINKO

空調の“?”に、オクージオ®がお応えします。

1 新鮮な外気を多く取り込みたい！ 空調で何とかならない？

外気導入量をただ増やすだけでは、夏はジメジメ、冬はカサカサになってしまいます。大風量換気ができるオクージオなら、体感温度は快適なまま、新鮮な外気の導入量を増やすことができます。さらに、雨天や梅雨にはドライモジュール機能(オプション)を、冬季には加湿器(オプション)を搭載することも可能。室内に加湿器を置く必要もありません。



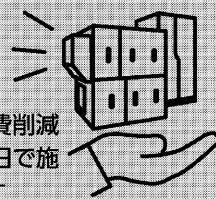
2 どんな建物に使えるの？

「オフィスや学校、病院」では、新鮮な外気量を確保し、空気質を維持。「食品工場や厨房」では低湿度の空気を供給します。「ホールや体育館、工場」などの大空間では、複数のオクージオを使って順番にデフロスト運転を行い、給気温度の低下を抑制します。耐塩害仕様などのオプション対応もできます。

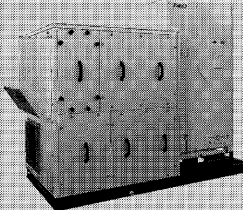


3 空調機の設置って大変じゃないの？

オクージオなら簡単に設置できます。現地での作業はミニマムな工程*のみ。工期短縮、施工費削減が可能です。ちなみに通常のヒートポンプ空調機であれば、4～5日かかるところを、わずか1日で施工完了した現場もあります。 *「設置」「電気設備工事」以外の「組立」「試運転」「冷媒配管工事」は不要です



ヒートポンプ
空調機シリーズ
室外機一体型
ヒートポンプ空調機
オクージオ®



新晃工業株式会社 www.sinko.co.jp

東京支社: 東京都中央区日本橋浜町2丁目57番地7号 〒103-0007 TEL(03)5640-4155
大阪支社: 大阪市北区南森町1丁目4番5号 〒530-0054 TEL(06)6367-1801
名古屋支社: 名古屋市中村区名駅南1丁目24番30号 〒450-0003 TEL(052)581-8661

札幌営業所: 札幌市北区北10条西3丁目9番2号 〒001-0010 TEL(011)708-3177
東北営業所: 仙台市青葉区中央1丁目6番35号 〒980-0021 TEL(022)262-7445
九州営業所: 福岡市博多区冷泉町5番35号 〒812-0039 TEL(092)291-8545



快適で創造的な空間 実現

企業の間でオフィス回帰の動きが強まっている。背景として、対面コミュニケーションの不足や生産性の停滞が挙げられる。リモートワークでは成果の可視化や部署間の連携に課題があり、雑談から生まれるアイデアの創出や若手社員への教育が難しいとの声が根強い。こうした中、企業はオフィスに対して従来の「単なる事務作業の場」から「社内コミュニケーションを活性化し、イノベーションを創出する空間」としての役割を求め始めている。その結果、社員が行きたくなるような快適なオフィスへと変革するニーズが高まっている。

内田洋行

会議室「カラ予約」解消

最適なデスク 選択

会議室は企業グループ内の複数組織で共用されることが多く、特に都市圏のオフィスでは出社人数に対し会議室が慢性的に不足するという問題が起きている。そのため「とりあえず」予約しながらも実際には利用しない「カラ予約」が発生しがちだ。会議室の利用者だけでなく「会社のスペース」という資産の運用面からも問題となっており、限られたオフィス空間をいかに効率的に活用するかが、企

業経営における重要なテーマとなっている。

内田洋行の「Smart Rooms」は会議室の予約・管理を効率化するクラウド型会議室予約管理システム。会議室前の端末で利用状況を確認でき、「入室」「今すぐ利用」などの操作を直感的に行える。また一定時間内に入室がない場合は自動的に予約がキャンセルとなる。ネットワーク営業部の長澤達朗次長は「カラ予約を解消すること

もスムーズに行える。このシステムをデスク単位で取り入れたのが1月に発売された「デスク端末」だ。高性能パソコンが設置されたデスクやウェブ会議用デスクなど、一人ひとりの席まで予約・管理することが可能になった。「業務内容に沿った最適なデスクを選択することで、適した環境での作業ができ、より一層生産性の向上が図れる」（長澤次長）。また「社員証連携オプション」を導入すれば、部屋前端末やデスク端末に社員証をタッチするだけで在席が自動登録され、サイネージにリアルタイムで反映される。周囲にいる人の名前や所属がすぐに分かり、円滑なコミュニケーション環境を実現する。



Smart Rooms
「デスク端末」

UCHIDA

ハイブリッドワーク時代のワークプレイスソリューション。

働き方が多様化する中で、一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮させるワークプレイスの進化は、働き方改革における大きなテーマです。限られた会議室を効率的に運用すること。対面での参加者とリモートでの参加者の創造性を融合させること。オフィスにおける時間と空間を有効に使うこと。UCHIDAは、働く人と働く場を見つめ続けてきたノウハウと先進のテクノロジーで、新しい時代の新しいワークプレイスソリューションを提供します。

ICTで「働く場」は変わる。

UCHIDA

